

〈ビジネスセッション報告〉

第1回HEIグローバルフォーラム・ アジアビジネスサミット

加 藤 敦
(同志社女子大学)
現代社会学部教授



1. ビジネスセッションの全体像

本セッションは大会第2日である9月12日に「第1回HEIグローバルフォーラム並びにアジアビジネスサミット」としてアカデミックセッションと並行して開催された。自らも起業家であるHermawan Kartajaya ACSB会長の開会挨拶、Ayman Tarabishy ICSB事務局長の基調講演を皮切りにYong-Jin Kim ACSB事務局長の司会で進められた。午前から午後にかけてアジア各国支部から人間主義的な企業家などが紹介され、出席者からの口頭発表を経て、Yong-Jin Kim氏らにより「HEIグローバル東京宣言」が読み上げられた。さらにElim Chew, Olivia Lu 両ACSB副会長による若者や女性のリーダーシップについての講演、マカオ中小企業協会会長であるChong Kit Au氏の講演、Hooi Den Huan博士（シンガポール）の最新のマーケティング論についての講演など盛り沢山のイベントを経て、総まとめとしてアジア中小企業の交流の在り方についてパネル討論が行われた。パネリストは元韓国中小

企業庁のYoung-Sup Joo氏、Elim Chew氏、Nguyen Viet Khoiベトナム国立大学教授、Vicki Stylianou ICSB副会長並びに三井逸友 JICSB前委員長である。

本稿では人間主義的な企業家と「HEIグローバルネットワーク」について述べた上で、日本支部推薦の実務家、アジア各国支部推薦の実務家について紹介し、結びにおいてビジネスセッションの意義について論じたい。

2. 人間主義的な企業家と「HEIグローバルネットワーク」

ビジネスセッションの目玉は「HEIグローバルネットワーク」のお披露目である。HEIはHumane Entrepreneurship Initiativeの頭文字をとったもので、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標、以下、SDGs）を柱の一つとするICSBの戦略に呼応し、ACSBが立ち上げた人間主義的な企業家の国際ネットワークである。なお、Entrepreneurshipには創業者だけでなく企業リーダーも含まれるので、

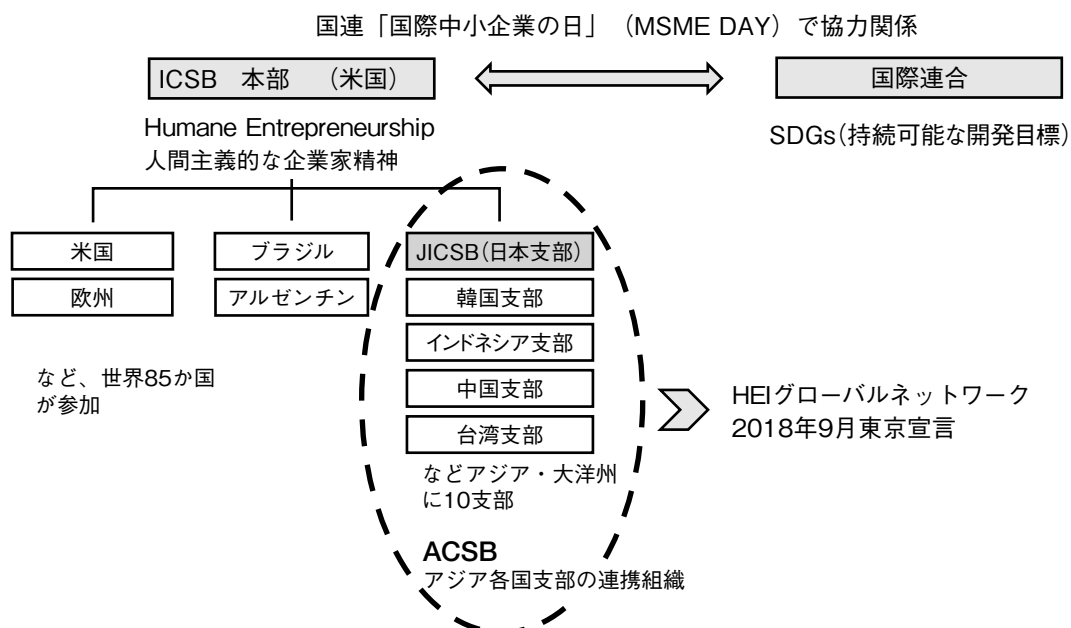
本稿では企業家とする。ICSBは中小企業の発展こそ国際連合が掲げるSDGs推進に不可欠なものだと働きかけ、2017年の国連「国際中小企業の日」(Micro-, Small and Medium-sized Enterprises Day, 6月27日) 制定に寄与した。ICSBは中小企業の発展自体はもちろんSDGsに貢献するが、SDGsを力強く推進する企業活動こそサポートすべきであるという姿勢を鮮明に打ち出した。そして、「国際中小企業の日」旗振り役の一人であるKi-Chan Kim 韓国カトリック大学教授(元ICSB会長)は、経済的な企業活動に取り組むだけでなく、環境、地域、従業員などステイクホルダーを大切にする人間主義的な活動にも取り組むリーダーこそ Humane Entrepreneurship (人間主義的な企業家精神) に溢れた企業家であり、人間主義的な企業家の国際的ネットワークを構築して行こうと呼びかけている。こうした背景から、ACSBに加入するアジア各国支部がそれぞれ人間主義的な企

業家を推薦し、有力な企業家が参集し「東京宣言」が発せられた。

3. 日本支部推薦の実務家

JICSBの推薦は理事会にて行われ、高橋徳行 JICSB 理事の紹介により、次の6名の口頭報告が行われた。大川哲郎氏(大川印刷株式会社)は2005年から「ソーシャルプリンティング」という理念を掲げ、有害原材料の排除など環境・人にやさしい印刷業を進めている。浜野慶一氏(株式会社浜野製作所)は試作品中心の金属加工業を営み、伝統的な加工機からNC工作機械まで幅広く組み合わせた効率的な生産体制を確立する一方、「ガレージ・スミダ」という下町を中心とする中小企業の技を結集し高度な加工を行う製造業のネットワークのハブになっている。高橋陽子氏(ダンウェイ株式会社)は障がい者雇用促進事業を自ら実践するとともに、障がい者のIT関連業務支援ソフト「治具」を通じ、

図表 HEIグローバルネットワーク



障がい者支援サービス業をサポートする活動を展開している。杉山定久氏（南富士株式会社）は日本有数の総合外装業の経営者であるが、一方で中国やベトナムなどで45年間にわたり人材育成事業に携わり「アジアの人づくり」に尽力してきた。兼子佳恵氏（NPO法人石巻復興支援センター）は震災後の石巻市においてママ友とともに立ち上がり、仮設住宅居住者支援、ボランティア受け入れ調整、女性起業家育成支援など多彩な活動を展開している。小原祥嵩氏（ハバタク株式会社）は東京都千代田区、秋田県、ベトナムなどで、国や地域の特性を尊重した各種交流事業、起業支援、教育サービス等を展開している。

また午後のセッションではIT活用によるアジア中小企業の業務革新の可能性について、日本ITストラテジスト協会会長の岡室俊之氏（大洋製器工業株式会社）、インド出身の国際派技術者アビジト氏（株式会社シー・シー・ダブル）、文書管理システムの専門家であるITコンサルタント石井昭紀氏（イージフ株式会社）が口頭発表した。

4. アジア各国支部推薦の実務家

韓国、シンガポール、インドネシア、タイ、ベトナム、マカオなどから20名を超える実務家が参加し、口頭発表をしたり、昼食時などを利用しネットワーキングをしたりした。ここでは特徴的であった韓国、シンガポール、タイの実務家について詳しく述べたい。

第1に韓国支部から3人の気鋭のリーダーによる口頭発表があった。まず2人乗り軽飛行機のベンチャー企業として世界的に有名な Vessel

社CEOのKi-Man Seo氏の発表では、同社の起業家精神の背景には従業員を大切にする経営姿勢があることを強調された。また「韓流コスメ」の一角を担う化粧品会社 P&J Medesthetics の創立者 Cheon Min Jang 氏は女性が主役となる社会について、「2030年光州広域市温室ガス削減ロードマップ」を策定したSDGsに取り組む先進自治体である光州広域市の Ji-Woo Kim 氏は「人間中心の街づくり」について、それぞれ豊富な資料にもとづき説明した。第2にインドネシア支部からの参加した実務家は2名であったが、ACSB副会長で Elim Chew 氏の講演はアジア女性の力強さが示され、人間的企業家精神の発露が示された典型例であった。同氏は街着ファッションブランド「77th STREET」の創立者として成功する一方、パフォーマー発掘のための様々なイベントを立ち上げたり、CRIBという女性起業家をサポートする運動に加わったりするなど、多彩な社会的活動を展開している。多くの公職にも就き、シンガポールのカリスマである同氏は、様々なメディアを通じ若者達に「Change Maker」というメッセージを呼び掛けている。第3にタイからは Sukit Uarmahacharoen 博士（タイ支部会長）をリーダーとして最も多い10人の実務家が参加した。W. Rungpanya 氏はタイ国内・国際貨物を扱う総合運輸サービス会社 Falcon Logistic Solution の創立者・経営者であり、Thamrongsuthanyoot 兄弟は若者向けキャンプなどを運営する教育サービス会社 Pladao Group を共同創業した。さらに武道ムエタイを動画等で学ぶオンライン教育サービスに参画するアニメ会社経営者 L. Taechawanchai 氏や、国内有数のシェフである S. Yamlungsub

氏も加わった多彩な顔触れであった。

他の国についても簡単に述べよう。インドネシアからは4名の実務家が参加し、ACSB会長で、マーケティング会社Markplus創立者のHermawan氏がマーケティング戦略について講演した。ベトナムからは Khoi教授の他、国営経済新聞記者Nguyen Van Hong氏など3人の実務家が参加した。また、マカオ・香港に拠点を置く金融グループDelta Asia Finance Group創立者でマカオ中小企業協会会長のChong Kit Au氏からマカオ経済界の現状について講演があった。

5. 結び

ビジネスセッション全体を通してみると、人道的起業家というICSBが重視する分野において日本の先進性を示せたことが最大の成果である。先述の通り、SDGs推進の一環としてICSBは「国連中小企業の日」設置に関与し、Ki-Chan Kim 元ICSB会長の働きかけで、アジアでの人道的起業家のネットワークづくりを進めている。ビジネスセッションにおける日本の

6企業・団体のプレゼンテーションは同氏から高く評価され、ICSBのAyman Tarabishy事務局長に至っては、国際的にみてベストプラクティスの範疇に入る事例も含まれていると述べている。また、本セッションとは直接関係ないが、コンファレンスパーティにおいて、Tarabishy事務局長より、2012年の日本支部再結成をなしとげた三井逸友前委員長の卓越した業績に対しICSB名誉会員の称号授与の発表があった。ご本人にとっても、JICSBにとっても、その意義を本部から認識してもらい有り難いことである。

一方、ICSB全体でみると、ISBC (International Small Business Congress) との新しい関係が示された大会であったと言える。実はマカオのChong Kit Au氏はISBCの会長でもある。同氏は6月のICSB大会に参加しフロアからAyman Tarabishy事務局長に求められ発言しているが、正式招待者として講演した。両者が協調・互換関係にあることを双方のトップが互いに認識しあったものと筆者は受け止めた。

